福音新聞
THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教110～120周年
標　語
共に生きる
いのちの天幕を
広げよう

1963年9月20日　第3種郵便物認可（毎月一日発行）
2022年9月1日（木）第819号
発行所　福音新聞社（1部100円）
〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398 info@kccj.jp
発行人 / 中江洋一・編集人 / 金 柄 鎬
印刷所　青丘文化社

人権主日
説　教

イエスに従って

＜ルカによる福音書11：33～46＞

申 容 燮 牧師（KCC 幹事）

イエス様の生き様を考えると、神の子であり、肉体を持ってこの地に来られた神様ですが、人権に関して関心が高い事を感じます。 正統主義ユダヤ人が、律法と昔の人（長老達）の言い伝えを守れと言いながら、女性や子どもたちを男性と違って差別をする姿を見て、イエス様が神様の言葉を通して、それは間違っていると教える姿はキリスト教徒でない人々も尊敬できる姿だと感じられます。

1948年に宣言された世界人権宣言は、今でも全世界の人々が人権解放を叫び、抑圧者の前に掲げる宣言文です。 人権とは人として当然享受できる権利のことですが、人権宣言では第一に、精神的自由を享受できる権利(信仰、思想、言論、学問の自由)

第二に、体に対する自由を享受できる権利、第三に、人間らしい人生を享受できる権利としています。

読んでみれば誰もが反対しない当然の権利ですが、80年余り経った今もこの人権宣言がまともに実践されていないことは世界すべての国の共通的な問題と言えるでしょう。 なぜなら、私たちは今まで慣習や習慣のように当然だと思ってきたことが間違いであって、それを変えなければならないということに拒否感を感じるからです。

ある航空会社で女性乗務員にスカートではなくズボン着用を許容したことで反対意見と賛成意見がインターネットでぶつかったことがありました。 スカートの方が端正に見えるかもしれませんが、緊急時にはズボンをはいたほうが乗務員自身も乗務員に頼るべき乗客も都合がいいはずです。 むしろなぜ今ごろ、という気がするほどです。些細なことですが、まさにこのような些細なことも人権と関連したことです。 しかし、私たちは昔から行ってきた慣習や習慣、思想によって、それまでと違う事を受け入れられない場合があるのも事実です。

イエス様がユダヤ人をご覧になって感じた事も同じだったと思います。なんで男だけ？どうして正統主義ユダヤ人だけ？ 律法と昔の人の言い伝えに捕らわれて長い間差別と区別を作ってきたユダヤ人たちには認識できず、気づかなかった人権差別的問題をイエス様は批判し、神様の意思を教えてくださったのです。まさに「神の愛は誰にでも平等だ」ということです。

誰でもイエス様を通して神様を信じれば神様の子どもになれること。 ここには他の条件がありません。なんと驚くべき恩恵でしょうか。 なんと大きい愛でしょうか。

けれども、今日、教会あるいは私たちも、正統主義ユダヤ人のようにここに条件をつけてはいないでしょうか？ 教会への出席をきちんとしてこそ、献金をきちんとささげてこそ、教会の職分をきちんとこなしてこそ、お祈りを一生懸命してこそ…。等々の条件を付けるのではないでしょうか。 教会に行くことは神様の驚くべき恩恵に感謝し、喜ぶことであるのに、負担になり、大変で、行きたくないことに罪悪感を持つようにしてしまってはいないでしょうか。

イエス様がユダヤ宗教者たちを批判したのもまさにそのような理由だと思います。 自分だけが神様を信じているという偽善的な姿は必要なく、律法や規則を守るから神様が認めてくださるのでもなく、ただ神様の恵みで誰もが神様を父と呼ぶことができる。 誰も何も条件を付けてはならない、これこそがイエス様が言おうとされている事なのではないでしょうか。 つまり、そのようなイエス様の姿は色々な形で人を差別するその時代に反対するまるで革命家のような姿であり、人権解放論者の姿だったのではないかと想像することができます。

私たちもイエス様に倣って祈るならば「神様の愛は誰にでも平等だ。」この大前提に他の条件を付けず、誰にでも開かれている教会、誰もが歓迎される教会を作らなければならないのではないでしょうか。 そして、今まで気づかないうちに差別をしてしまっていたら、改善しようと努力するべきではないでしょうか？

私たちもイエス様に倣って革命家、人権解放論者の姿勢を持つものになりたいと思います。

教会は神様を礼拝する所なので、社会問題、人権問題を話すことに批判的な人々もいるでしょう。 政治問題を教会で話すのは各自の背景が異なるので簡単ではないと思います。 しかし人権差別問題は政治問題と違って背景が違うからといって、考えが違うからといってそのまま無視してはならない共通の問題です。

もう一度確認いたしますが、教会は神様に礼拝をささげるところです。 そして私たちは教会で神様の言葉を聞いて、実践しなければならず、「福音」を伝えなければなりません。 これがキリスト教徒の使命です。この「福音」とは、すべての人は平等で、すべての人は神様の子どもになれるということであります。 そのために私たちは人権差別問題により一層関心を持たなければならず、私たちが誰かを差別しているのではないかと振り返らなければなりません。

人権主日を迎えてイエスに従って人権解放の声を高める私たちになることを願います。

韓日対照讃頌歌販売

韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。
●B6版変型・1483ページ
●価格：2,500円（消費税・送料込み）
※お求めは総会事務所へ

講壇掛・ストール販売

在日大韓基督教会ではKCCJのロゴ入り講壇掛・ストールを制作・販売しています。
価格は講壇掛・ストール共４色セットで各1万円（約半額）
講壇掛・ストール両方ご購入の場合は1万5千円です。※お求めは総会事務所へ

西部地方会

御言葉の伝道集会開催

4部にわたり恵み溢れる時間を共有

去る６月19日（主日）午後、神戸教会おいて西部地方会伝道部と神戸教会共催により、信仰の回復と伝道活動を励ますための御言葉の伝道集会を行った。

西部地方会の諸教会から68名が参加し、賛美と証し、そして御言葉を通して神様の豊かな恵みを分かち合った。

今回は、講師に藤本満牧師（インマヌエル高津教会）とフルート奏者の若松裕子姉（川西教会）を招き行った。

第１部は青年連合チームのリードで讃美の時間を持ち、引き続き第２部は梁律子勧士（神戸教会）の司会により尹鐘憲牧師（明石教会）の祈りの後、フルート奏者若松裕子妹の演奏と証しがあった。

第３部は藤本満牧師の説教を通して神様の恵みを分かち合った。

第４部は伝道部長李重載牧師（川西教会）の司会により、２年未満の信徒たちと当日初めて教会に来た方（１名）にプレゼントを贈りながら歓迎し祝福の時間を持った。 参加者全員から「本当に楽しくて恵みが溢れる時間だった」との感想が寄せられた。なお、神戸教会のYouTubeチャンネルより同時配信された。

（報告：尹鐘憲牧師）

京都教会

金政芸長老将立式を挙行

康玲子・千末仙勧士就任式、名誉執事推戴式も

主なる神様の大いなる恵みと祝福のもと、７月31日午後３時から京都教会礼拝堂で金政芸長老将立式、康玲子、千末仙勧士就任式、李栄惠、国崎秋助、柳末生、金明子、河礼子執事の名誉執事推戴式が行われた。

礼拝には堂会長の林明基牧師の司会より進行し、副総会長の梁栄友牧師により、「お互い重荷を担う働き人」（ガラテヤ６：１～５）という題で説教が行われた。

長老将立式には関西地方会長代行の朴栄子牧師の司式のもと、金政芸長老将立式が行われ、引き続き、康玲子、千末仙勧士就任式、李栄惠、国崎秋助、柳末生、金明子、河礼子執事の名誉推戴式が行われた。

また、京都教会の姉妹教会の釜山・平光教会から金瞳熙牧師がビデオメッセージで祝辞が送られた。

この度、京都教会の長老として将立された金政芸長老は、1980年韓国で生まれ、留学のために来日、2007年から京都教会に出席し、2014年から執事として仕えてきた。

讃頌歌委員会より「子どもさんびか」が発行されました。

主の祈り・使徒信条・交読文・十戒　集録
（いずれも韓国語・日本語）
一冊1,000円
お問い合わせは総会事務局へ
電話　03−3202−5398

全国女性会

研修会をリモートで開催

駒井知会弁護士を招いて講演会

全国教会女性連合会（宣教社会局）主催の2022年度研修会が、７月23日（土）13時から15時半までリモートで開催された。

主題は「主に接ぎ木された者として」、副題「日本に辿りついた難民たちの直面する問題及び入管収容問題」で、講師として入管収容問題、難民問題などに取り組んでいる駒井知会弁護士を招いて講演を聞いた。

全国教会から85名が参加した講演会は、前半後半で約1時間40分の講演が行われ、講演後には質疑応答の時間を持った。強制収容されている方々が非人道的な扱いを受け、講師の「人の魂を壊す行為」という言葉が胸に響いた。

講演後には全国女性会の活動報告があり、閉会祈祷を持って研修会を終えた。

良い学びの時を与えてくださった主に感謝しながら、次回は対面研修会が開催されることを祈る。　（報告：李敏禮）

東京教会

全三郎隠退長老が召天

在日韓国YMCA理事長なども歴任

去る2022年７月29日、東京教会の全三郎隠退長老が74歳の生涯を終えて天に召され、東京教会において金聖泰牧師の司式により葬儀が行われた。

故全三郎長老は1947年日本で生まれ、東京福音教会で信仰生活が始まり、1994年長老として将立され、その後、在日大韓基督教会東京教会に移籍し、2000年に東京教会の視務長老として就任し、2017年に引退した。

東京韓国YMCA理事、理事長、関東地方会副会長を歴任した。

KCCJ 西宮教会 牧師招聘

教会の未来のために共に働いで下さる方
連絡先：shukoshinozaki@gmail.con
臨時堂会長　尹鐘憲牧師

豊かな味、豊かな心。
妻家房
SAIKABO
代表取締役　呉 永錫（東京希望キリスト教会 長老）
四谷本店：東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

韓半島平和フォーラム開催

KCCJから平和統一会議準備委員ら5名が参加

2022年８月11日から12日にかけてCBS（基督教放送局）とNCCK（韓国キリスト教会協議会）の共催による「韓半島平和フォーラム」がソウル救世軍アートホールで開催され、平和統一会議準備委員会としては委員長の金鐘賢牧師、委員の金迅野牧師、宣教委員長の趙永哲牧師、前委員長の鄭然元牧師、総幹事の金柄鎬牧師が参加した。

テーマは「分断された韓半島で平和の道を問う」。日本、アメリカ、カナダなどの海外からの参加者を含め約50名が参加した。フォーラムは、６つのセッション（国際政治と地政学的現在、南北韓社会の変化と南北関係の現在、南南・南北の葛藤の転換のための民による平和づくり、統一世代の平和構築、平和共存のための実践課題、全体ワークショップ）で構成され、午前９時から午後６時まで行われ、密度の濃い時間が流れた。１日目はおもに南北の状況をめぐるアジア全体の状況をめぐるアカデミックな研究発表がおこなわれた。参加者から国民国家を主語とする「地政学」のなかに在日コリアンなどのディアスポラの存在が忘却されているのではないかという指摘がなされた。２日目はおもに教会を含めた民間の活動の意義について、様々な実践の現場そして若い世代からの発題がなされた。「南南の葛藤」という用語を通して、保守・進歩だけでなく、洪水で真っ先に犠牲にさらされる「半地下」に代表される経済的格差、ジェンダーをめぐる葛藤、移住民に対する差別など、韓国社会内部の多様で重層的な葛藤が浮き彫りにされた。また、「民」と言ってもpeople, citizen, multitudeなど、どのような存在を主体としてイメージするのか、葛藤に内包される多層的な矛盾の複雑さを丁寧に眼差すことなく葛藤を語ることは表層的な整理に過ぎなくなるのではないかという問題提起が刺激的であった。若い世代からアメリカにおける移住民多重地域における「共生」のまちづくりの経験から、国民国家を前提にした「統一」概念の限界が指摘されるとともに、「脱―分断」を体現する者として「世界市民」を構想することが提案された。最後の全体ワークショップでは、韓国内、海外参加者に分かれて自由なディスカッションをおこなわれ、「ディアスポラ」が集う場を継続的に設けていくことが平和への確かな道であるということが確認された。

このフォーラムの続きとして13日(土)の朝鮮戦争激戦地現場踏査とDMZ巡礼、14日（日）の午後に行われた「世界教会と共にする韓半島平和統一共同祈祷主日合同礼拝」には趙永哲牧師、金柄鎬総幹事が参席された。　**（報告：金迅野牧師）**

＜人権主日礼拝 祈祷文、交読文＞

世界の歴史を導かれる創造主よ。

この日本社会にはさまざまな民族や国内外の人々が、互いに支えあいながら生活しています。それぞれの歴史や文化、生活習慣や言葉を尊重し合いながら、多文化共生社会を実現しようと努力しています。しかしながら、一方で自分の利益だけを追い求める勢力も存在しています。このような狭間の中で神の国を作り出す働き人として私たちを用いてくださることに感謝いたします。私たちは時に隣人を偏見の目で見たり、心を傷つけてしまうことがあります。主よ、どうかお赦しください。誰一人とり残されずすべての人が人間として、日々この社会に生きる住民として、その尊厳が守られますように。そのために、住民相互の異文化間の交わりがいっそう深められ広められ、法制度を含む社会の仕組みが整えられるようにしてください。特に今日、新型コロナのパンデミックにより、世界中が未曽有の困難な状況に直面しています。困難な状況にあっても、互いの信頼感がますます豊かに育まれますように。主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。

○司会者：日本に住む外国人住民の基本的人権が守られるために祈ります。
今、日本に住んでいる多くの外国人住民が様々な差別に苦しめられています。不当な就職差別、入居拒否、ヘイトクライム、ヘイトスピーチなどをゆるさず、外国人住民一人一人の人間としての尊厳が守られますように。
●一　同：主よ、私たちの祈りを受け入れてください。

○司会者：日本政府の入国管理行政の人権侵害がなくなるために祈ります。
入管収容施設に入れられている多くの外国人住民が非人道的に扱われ、今も苦しみながら助けを求めています。このような事実に向き合い、差別的な扱いをしない社会を作ることができますように。
●一　同：主よ、私たちの祈りを受け入れてください。

○司会者：外国人住民へのヘイトスピーチがなくなるために祈ります。
街頭での演説のみならず、いまだに選挙運動やインターネット上で憎悪をあおる言葉の暴力が繰り返されています。「言論の自由」を隠れみのにした犯罪であるこれらのヘイトスピーチが根絶され、すべての人の尊厳と名誉が守られますように。
●一　同：主よ、私たちの祈りを受け入れてください。

○司会者：外国人住民の子どもたちのために祈ります。
今、学校に通えない外国人住民の子どもたちが多くいます。その子どもたちに教育を受ける機会が与えられますように。また何よりも母語の学習機会が与えられ、自国の文化をよりよく理解することができますように。
●一　同：主よ、私たちの祈りを受け入れてください。

○司会者：「外国人住民基本法」の制定に向けて祈ります。
日本に住んでいる外国人住民はただ日本国籍がないという理由だけで、不当な扱いを受けています。この現実を少しでも改善するために一日も早く「外国人住民基本法」が制定され、世界のすべての人々に開かれた日本の社会が実現しますように。
●一　同：主よ、私たちの祈りを受け入れてください。

○司会者：コロナ禍のただなかで苦しんでいる外国人住民のために祈ります。
コロナ感染症（Covid19）のパンデミック規模の感染拡大により、自国に帰りたくても帰れない人や再入国ができない労働者・留学生が多くいます。この人たちの困難と苦しみを顧み、生きていくために必要な助けをお与えください。
●一　同：主よ、私たちの祈りを受け入れてください。

（社会委員会提供）

追悼文

「お兄さん、ありがとう！」

金 敏 子（小倉教会名誉執事）

先日、６月５日礼拝後、小倉教会において金敏子さんはカナダで召天されたお兄さんの故・金海天元老長老の思い出の証をしました。武庫川教会出身の故人への思い出と証を共有されることを願います。（小倉教会：朱文洪牧師）

両親と金海天夫婦

「神はすべてを時期にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業をはじめから終わりまで見極めることは許されていない」（伝道の書３：11）

100年以上前、韓国が日本の植民地支配を受けている時代、両親が結婚しました。生活が苦しいためアボジは日本に渡りました。暫くして若いオモニは日本にいるアボジの住所が書いてある紙切れ一枚を持って、日本にやって来ました。日本で４人の娘が次々生まれ、５番目に兄が生まれました。

オモニは兄を妊娠中、過酷な煉瓦工場で働いていました。生まれた子は黒い小さな男の子でした。アボジは「金玉や金玉や」と言って喜んでいたそうです。５番目にやっと待望の男の子が生まれたのですから、喜びは、ひとしおだったと思います。

それから私と妹が生まれました。父は私たちを「するっておんぬんかしなどぅる」と言っておりました。アボジが韓国の青洲で84歳で召される臨終のときに、日本から一番初めに着いた私がハアハア苦しんでいるアボジの耳元につぶやきました。「するっておんぬんかしな／（쓸대없는 가시나=使い勝手のない女）が来たよ。」そうして、周りの親戚の人達が和みました。

兄は一級建築設計士の資格を取って大学を卒業しましたが、企業に戸籍謄本を提出すると、韓国人差別で採用されませんでした。そして小さな土建会社に日本名大塚実で職を得ました。その小さな会社の社長さんに「ほう、うちの会社にも大学卒業の人が来てくれるんかいな。」と言われたそうです。当時そのような規模の小さな会社は戸籍謄本を提出しなくても良かったのです。そこを何年間か務めて結婚しました。

当時関西地方青年会では、基督教のミッションスクール大阪女学院による、人数が多かった韓国人クリスチャンを減らす動きに、マッキントシュ牧師を先頭に抗議の運動が起こり、兄はそれに加わったりしました。マッキントシュ牧師を通して、カナダの国は技術資格を持つ人材を多く募集しているという情報を得、それに応募しました。その頃兄には小さな２人の子どもがいましたが、韓国人は子供の健康保険も加入できない日本社会で生きるより、差別のない国へ行く決心をしカナダに渡りました。

カナダではマッキントシュ牧師のお父さまが牧場をしていました。アボジが豚を飼っていたので養豚の経験がある家族４人は、２週間ほどマッキントシュ牧師のお父さまの家でお世話になりました。そしてまもなく企業に就職しました。日本のように夜遅くまで残業がないので水曜日には会社の帰りに教会の水曜礼拝に行っていました。韓国からの移民は常に忙しく働いていましたから、水曜日の礼拝参加はなかなか難しく、ときには牧師と２人で礼拝していたそうです。そして日曜日には朝早くから家族より先に教会へ行き、走り回っていたそうです。６月から通い始めたその教会は、信徒の働きにより９月には正式に教会として設立されました。教会では一般信者の方々は、兄は独身者と思っていたそうです。義理の姉は２人の子ども連れて後から礼拝に出席していたからです。長老は居ましたが執事がいませんから、日本で執事になっていた兄は執事となり2、3年程で長老に抜擢されました。教会の集会、早天祈祷会も一日も欠かしたことが無かったそうです。カナダでは教会は韓国人のコミュニティでしたから、英語より韓国語が上手になりました。そして職場を定年退職し70歳で長老職も隠退して元老長老となりました。

その後中国へ延辺朝鮮族への宣教師として渡りました。中国は外国人の宗教活動を厳しく禁じているので、まず延辺大学の教授として赴任しました。中国では韓国語も英語も上手ではありませんでしたが生徒たちに人気があったそうです。その頃兄が中国から日本に何日か訪問してきたことがありました。小倉の我が家にも来てくれて、兄がお風呂に入った後は、浴槽に身体の垢がたくさん付いていました。私はそれを見て、兄は中国で随分苦労しているのだなと思いました。中国でも早天祈祷会はかかさなかったそうです。その頃カナダでは長女のミサが30代後半にガンで亡くなりました。兄が約10年間中国で奉仕してカナダに帰り健康診断を受けたところ、兄も肺がんと診断されました。医者から宣告されて７年が経ち、今年の７月の88歳のお祝いをどのようにしようかとか、夫婦二人で老人ホームの手続きをしようかと話している時に天に召されました。子供たちは「DADはChurch Crazy 」パパは教会狂いと言っていたそうですが、きっと兄にとっては本望だったと思います。兄は神さまの栄光の為にイエス様の弟子として一生涯捧げたのですから。

パウロは「私は戦いを立派に戦い抜き、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や義の冠が私を待っているばかりである。かの日には公平な審判者である主が、それを授けてくださるであろう。私ばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。」（第２テモテ４：７～８）

去る、2022年５月４日　19時30分（日本時間５月５日朝６時30分）オッパ金海天長老は天に召されました。尊敬し誇りにしているオッパでした。

2018年在日カナダ宣教師展示会で